

第6学年西組 社会科学習指導案

学習指導者 出演 大資

1 単元 「平和な世界を築く日本の役割 ～人がつながる 未来へつながる～」

2 単元について

(1) 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

国際社会における我が国の役割を明らかにするために、社会的事象の見方・考え方を働かせながら我が国の国際協力の様子を捉え、その在り方について友達と考えを交流することで、国際社会における我が国の役割について解釈を再構成し、次の課題を追究しようとしている。

知識・技能	学びに向かう力・人間性等	思考力・判断力・表現力等
我が国は、国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを、地図帳などの各種資料で調べまとめることを通して理解できる。	国際協力について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、平和を願う日本人として世界の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。	地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現できる。

本単元では、写真から難民、飢え、病気に苦しむ人々の様子を読み取り、そこから空間を広げて世界地図を使って分布を調べたり、時間を広げて環境問題の深刻化や核兵器が拡散されている様子を調べたりして世界規模の課題に気付くことで、国際社会における日本の役割への関心を高めていく。そこで、世界の国々との連携と協力に着目して、日本のODAとNGOの活動を調べて比較することで、民間と政府のそれぞれの立場から教育・保健の分野で大きな役割を担っていることを明らかにしていく。子供たちは、これら世界情勢と日本の取組の様子を総合的に考え、日本の国際協力の在り方について、開発途上国など支援の必要な国に、世界の国々と連携を取りながら支援するという役割があるのだと捉えていく。その後、援助活動の一つであるスポーツ国際貢献事業の価値について話し合うことで「柔道を通して、心も体も鍛えられるよ」「そうだね。それに、国同士は対立をしても柔道によって人と人はお互いに分かり合えるんじゃないかな」などとスポーツを通じた国際協力の価値を考えたり、「かつて大きな戦争をした日本は、紛争をしている国の人たちに平和の大切さを伝えることができるはずだよ」などと日本の役割を再考したりし、「紛争をしている国の若い人たちでも柔道を通してお互いを理解したり、日本が敗戦から平和な国へ立ち直ったことに影響を受け、紛争解決へ意欲をもったりするはずだ」などとスポーツによる支援の価値と日本だからこそ果たせる役割について考えていく。

これらを通して、開発途上国の生活を支援することだと考えていた国際協力における日本の役割について、国際社会の平和と発展を目指した支援をすべきなのだ解釈を再構成していく。このように国際社会における日本の役割を理解し、世界の国々の人々と共に生きることが大切だという自覚をもって、これからの国際協力の在り方を追究していく姿を目指したい。

(2) 子供の実態

メタ認知に関する実態調査から、学習の計画と見通しの場面でメタ認知を働かせることが難しいと思われる子供は34名中6名いる。この6名の教科に関する実態調査から、友達の見解で納得することが多いと感じている子供が5名、振り返りが重要だと思っている子供が4名いることが分かった。このことから、メタ認知を働かせようとするのが難しい子供も協働や振り返りによってメタ認知を促すことが可能だと考えられる。また、本学級には、相手の思いや考えを想像することが難しいため、うまくコミュニケーションを取ることが苦手な子供が数名いる。

(3) メタ認知を促す働きかけ

① 課題設定以前

補助黒板にこれまでの学びを示しておき、その子供の意識とずれの生じる事実を前時の終末か本時の導入で出合わせる。本時の課題設定の場面では、そのずれを基に課題を設定する。その際に、課題設定の手順を示し、課題を確認する段階で、「どうして、そのめあてにしようと思ったの」と問う場を設定し、補助黒板を使いながら分かっていることと不確かなことを学級全体で整理していくことで、課題への妥当性を感じながら学習課題を共有できるようにする。【知りタイム】(4～9時間目)

② 課題解決中

各班で共通の関係図に、既習の資料のカードを付け足したり、矢印やその理由を書き込んだりして、思考した後を視覚的に残しながら交流する。そうして、友達の考えの理由を聞いたり、補助黒板の資料について話し合ったりしながら気付いた友達の考えの理由との共通点や差異点を基に、自分の考えを再考し、より納得いくものにしていく。【聞きタイム・話しタイム】(2, 4～8時間目)

③ 課題解決後

まとめを全体で整理した後、これまでの単元でも行っている、学習内容が納得できたポイントは何かという観点で振り返る。その際、「友達の発表を聞いて分かった」「時間を広げて考えると分かった」などの課題解決中に自分が納得した理由について記述させる。さらに、その振り返りを全体で交流し、学び方のよさを共有できるようにする。【鳥の目タイム】(1～8時間目)

3 単元計画 (総時数 9時間)

導入で「2020年の五輪で日本はどんなメッセージを世界に発信すればいいのだろう」という意識をもたせることで、スポーツを通じた国際支援について関心を高める。そして、従来のODAやNGOによる医療や農業の支援を目的とした活動に、ロス五輪で金メダルを取った山下泰裕氏が取り組んでいるスポーツ国際貢献事業の価値を考える活動を加える単元構成にする。そうすることで、人と人のつながりや平和に対する考え方の大切さを捉え、国際協力における日本の役割についてより深く学べるだろう。

次	学習の流れ及び主な子供の意識
第一 次	<p>①～③ 今の世界には、どんな問題があり、解決のために日本ができることはなんだろう</p> <p>まず、世界には、内紛や戦争の影響で難民や飢え・病気に苦しむ人が多くいることや核・環境問題など世界規模の問題があることを調べる。そして、日本の役割について話し合い、「2020年の五輪で日本はどんなメッセージを世界に発信すればいいのだろう」という単元の最終の課題を設定する。そして、第3時間目に世界の国々との連携に着目しながら、平和な世界を目指す日本の取組を調べる見通しをもつ。</p>
	<p>④ 平和な世界を目指して、日本は、他の国とどんな連携をしているのだろう</p> <p>世界規模の問題を解決するには一つの国の活動では限界があることに気付き、世界の国々が国際連合の機能を活用し、連携・協力しながら環境問題や核兵器廃絶に向けた取組を行っていくことの重要性を理解する。</p>
第二 次	<p>⑤⑥ 平和な世界を目指して、日本は、開発途上国でどのような援助活動を行っているのだろう</p> <p>NGOや青年海外協力隊が行っている生活支援や山下泰裕氏等が行っているスポーツ国際貢献事業を調べる活動を通して、「民」「官」が協力して、医療、教育等の分野で大きな役割を担っていることを理解する。</p>
	<p>⑦ 山下さんは、なぜ、危険の伴う地域で支援を続けるのだろう (本時7/9)</p> <p>日本が行っているスポーツ国際貢献事業の価値について話し合う活動を通して、これから平和な世界をつくるためには、日本にしかできない役割があることを理解する。</p>
	<p>⑧ 平和な世界を目指した、これからの国際協力について考えよう</p> <p>持続可能な開発サミットで採択された今後の方針について調べる活動を通して、経済的な貧富の差を超えて世界中の国々が連携を取り合いながら国際協力と国際交流を進めることが大切だと理解する。</p>
第三 次	<p>⑨ 2020年の東京五輪の開会式で伝えるべきメッセージについて自分の考えをまとめよう</p> <p>世界規模の問題を解決していくための日本の役割について話し合い、平和な世界を実現するために日本が2020年東京五輪の開会式で発信すべき内容について自分の考えをまとめる。</p>

4 本時の学習指導

(1) 目標

スポーツ国際貢献事業の意味について話し合う活動を通して、将来にわたって平和な世界をつくることにつながる活動だということを理解し、国際協力の在り方を再構成することができる。

(2) 学習指導過程

	学習活動	主な子供の意識	
課題設定以前	1 学習課題を確認する。 【知りタイム】	山下さん達は、政府と協力しながら開発途上国に指導者を派遣したり、選手を日本に招致したりと柔道に関わる支援をしていたね。 紛争が終わってから支援をすれば安全なのに、まだ、紛争が続いているイスラエルやパレスチナ地域でも支援をしているんだね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 山下さんは、なぜ、危険の伴う地域で支援を続けるのだろう </div>	
	課題解決中	2 スポーツによる国際貢献の良さについて話し合う。 【聞きタイム・話しタイム】	イスラエル人とパレスチナ人が一緒に写真を撮っているね。 きっと、柔道を通じた支援に意味があるはずだ。 途上国の人たちのためだと思う。私は日本人のためだと思う。東日本大震災の時に日本は多くの支援をしてもらったから、大変な時こそお互いに支援が必要だと考えたんじゃないかな。 もっと資料を詳しく見てみよう。 イスラエルやパレスチナの人たちは、中学生ぐらいだね。彼らが大人になった時に、お互い仲良くなることを目指したのかな。 長崎の平和祈念像の前で写真を撮っているね。被爆国として、五輪の目的である平和の大切さを伝えようとしたのかな。 紛争をしている国の若い人たちにスポーツを通じたつながりをつくり、五輪憲章にあるような平和の大切さを伝えようとしたんだ。
課題解決後		3 検証する。	イスラエルの選手は「相手を理解し、尊重することを学びました」と言っているね。 パレスチナの選手は、「長崎で争いは人としていけないことだと学びました」と言っているね。 山下さんは、「スポーツを通じてお互いを理解し、世界平和に貢献するという考えで活動している」と言っているね。 日本の役割は物や技術の支援だと思っていたけれど、人をつないだり、平和に対する考え方を広げたりする役割もあるんだね。
		4 本時の学びについて振り返る。 【鳥の目タイム】	今日の勉強で、納得できた理由を振り返ろう。 友達の意見を聞くことで、日本の役割がよく分かったよ。 立場を広げると、写真に込められた思いが分かったよ。 スポーツの他にも、人のつながりをつくるような会議や交流の場はあるのかな。 これからの両国の関係がどのようになっていくか知りたいね。東京五輪でぜひ様子を見たいね。

二日目
 提案授業Ⅱ指導案

(3) 授業の詳細

前時までの子供の意識 学習活動 1

子供たちは、日本が開発途上国を対象に柔道の指導者を派遣したり、選手を日本に招致したりするなど、アスリートを育てる環境作りをしていることを学んでいる。その支援を行っているイスラエルとパレスチナで紛争が続いている事実を知り、スポーツによる支援は安全な国で行われていると思っていた子供たちは、ずれを感じている。そこで本時は、そのずれを基に「山下さんは、なぜ、危険の伴う地域で支援を続けるのだろうか」という課題を表出させ、「なぜ、その課題にしようと思ったの」と問う。そうすることで、「支援は大切だけど、紛争が続く地域でまでスポーツを教える必要があるのか分からない」などと分かっていることと不確かなことを整理しながら課題設定の理由を交流し、学級全体で共通理解を図りながら課題を設定していくだろう。【**課題設定の手順**】

知りtime

1 前時のめあて
「前の時間のめあては…」

2 分かっていること
「分かったことは…」

3 前時のまとめ
「前の時間のまとめは…」

4 今日の課題
「今日することは…」

学習活動 2・3

見通しを立てる場面で、スポーツによる支援のよさがあることを確認することで、そのよさの対象について「日本」「開発途上国」の立場で考えていく。その際、手がかりになりそうな資料を補助黒板で確認し、見通しをもたせる。これらを基に予想し、一人一人が自分の考えをもてる時間を設ける。そして、友達に考えやその根拠を聞いたり、友達と資料を基に話し合ったりするなど、班で交流する場を設ける。その際、コミュニケーションに支援が必要な子供のために、「質問に答えてもらった後は、分かったことを相手に伝える」などの考えを伝え合う際の話し合いのこつを共通理解しておく。また、子供たちが考えを書き込むホワイトボードやカード化した資料を用意するなど、協働的な活動を通して自分の考えを深めるための学習環境を整えておく。そうすると、子供たちは、それぞれの立場で友達の考えや理由を聞きながら、自分の考えを再考し、「支援される国の人たちがスポーツを通してお互いに理解するためだ」と思っていたけれど、日本にしかできないことという視点で見ると、かつて大きな戦争を行った国として五輪憲章に示されているような平和の尊さを訴えることも重要だねとそれぞれの立場での考えをつなぎながらより納得いく考えを作り上げていく。【**聞きタイム・話しタイム**】検証では、まず、パレスチナとイスラエルの選手の話を提示し、来日して日本で共に練習や生活をしたことでお互いに理解し合えるようになったことや、長崎訪問で学んだ日本の戦争から平和について考えたことについて確認する。その後、山下康裕氏の話を示し、その思いを伝える。そうすることで、文化や宗教を越えて人がつながるスポーツの価値と大きな戦争を経験した日本だからこそ果たせる役割に気付かせていく。

学習活動 4

本時の終末に、「鳥の目タイムです」と子供たちに声をかける。そして、学習内容が納得できたポイントは何かという観点で学習を振り返る。【**鳥の目タイム**】その際に、友達の名前を

	友だちの発表：()さんの発表
今日の納得ポイント	広げて考える：()時間・()空間・()立場
	整理して考える：()国民生活・()国内政治・()国外政治
	※今日の納得ポイントに○を付けたり、友だちの名前を書いたりしましょう。

【今日の納得ポイント】

書く欄や子供たちから出そうな学び方に関する項目はあらかじめ明示し、振り返るようにする。すると、「○○さんが実際の活動とつないで説明してくれたのでよく分かった」「開発途上国の立場で考えていたけど、日本の役割という視点をもつことで考えが広がった」などと、学び方のよさを見いだすだろう。そして、本時の学びの中で、「スポーツの他にも、人のつながりをつくる支援はあるのかな」「イスラエルとパレスチナの今後は、どのように変わっていくのだろうか」などと国際協力の影響について課題を見いだすだろう。これらの課題を共有し、子供たちの追究意欲を高めていきたい。

(4) 評価

スポーツによる国際協力の目的を明らかにするために、他者と交流しながら日本や途上国の立場でスポーツ国際貢献事業の価値を考える。これらの活動を通して、国際協力における日本の役割の解釈を再構成し、その後の様子を追究しようとしている。【**方法：発言・ノート**】

提案授業Ⅱ指導案
二日目